

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和6年1月20日

業所名 こばんはうすさくら 新潟中央教室 保護者等数(児童数)15人 回収数 11数 割合 73%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応	
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	8	3			マンションの一部なので、少し狭く感じる部分もある。	身体を動かす活動は戸外を活用したり、室内に置いて安全対策を取りながら遊具の整備やスペース確保できる環境を整える。	
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	11						
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	6	2		3			
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	10	1					
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	11				毎回色々な活動を工夫して下さって有難いです。子どもが興味を持ってそうな活動を取り入れていると思う。可能な限りで戸外活動を取り入れて頂けると有難いです。	季節や園の行事に合わせた活動を織り込む。安全な配置を整え、戸外活動も増やす。	
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか			3	5	3	放デイでは特にないと思うが、ひまわり(学童保育)と併用して順調に過ごせている。	個人情報についての配慮をおこないながら、近隣の公共施設等を探し、出来ることから実施する。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	11						
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができてきているか	11					HUGがやりとりしやすく、対応もすぐして頂けるので助かります。	HUGのシステムを活用し、日々の支援内容が共有できるようにする。必要に応じ、送迎時に保護者の方と口頭で活動内容やこどもの変化を伝えるようにする。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	8	3					
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか			3	4	4	保護者同士の交流は機会を設けて頂くのも大変だと思う。	イベント後に保護者同士で交流が持てる機会を設ける等、出来る事から実施していく。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	5			3	3	苦情があったという報告がないのでどちらとも言えない。	子どもや保護者からの申し出後、直ちに苦情解決責任者へ報告、職員間で苦情内容を共有し、対応策を計る。子どもと保護者には迅速に状況説明と対応策を合わせて報告する。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	11						
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	9	1			1		
	14 個人情報に十分注意しているか	11						
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	7	3			1	緊急時の説明はされている。	避難訓練実施前などにHUG機能で各マニュアルから具体的な情報を発信し、適宜保護者に周知してもらおう工夫する。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	7		2		2		
満足度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	10	1				引き続き、安心、安全に過ごせる場所としての環境づくりをし、ひとりひとりの小さな成長を見逃さず、職員間で連携を図り、期待をもって来所できる場所を提供する。(イベントの企画・小集団、個別プログラムの見直し等)	親子も安心して預けられています。いつもありがとうございます。いつも楽しく利用させて頂きありがとうございます。手厚く支援頂いています。
	18 事業所の支援に満足しているか	11						保護者のご協力を頂き、子どもの成長を共感し、発達を促しているよう、関係機関との情報共有を含め、子どもたちとご家族を中心とした支援をおこなう。

8 3 0 0 73%

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 1月 20日

事業所名 こばんはうすさくら 新潟中央教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1	定員に満たされる場合、戸外での活動を多く取り入れ、活動に応じて環境設定を変え、過ごしやすくしている。	季節により、荷物量の増減があるため、荷物置き場の確保、玄関内の靴置きスペースを増やした。
	2	職員の配置数は適切である	4	2	特に問題なし	基本配置・当日の確認を欠かさないよう、視覚化し、事故につながらないようにしている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	1	気持ちの切り替えが出来るよう、「ゆっくり部屋」の設置をし、落ち着いて活動に再度参加できるような環境を整えている。	特性の違いに適切な環境設定をしきれない導線がある。利用人数や特性によって構造化できるよう、パーテーションかマット等でコーナー分けするよう改善する。ヒヤリハット等にて、引き続き危険に気付き、改善を図る様心がけていく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2	4	業務改善内容を、書面で残し、共有している。	PDCAサイクルの理解が職員によって違うため、新入社員には目標設定や振り返りが出来るよう表を作り、職員が同じ方向で参画できるようにした。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1	開所初年度のため、今後公開する。	開所初年度のため、今後取り組む。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1	開所初年度のため、今後公開する。	開所初年度のため、今後取り組む。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	2	特になし	現段階ではおこなっていないが今後要検討する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	開所初年度のため、事業所における基礎研修や経験年数別で動画研修受講、所内研修の際、具体的な支援方法(声のかけ方等)を共有している。	研修機会を公平に増やすため、研修内容のアンケートをとり、共通の支援方法が学べるよう、スケジュール化していく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	特に問題なし。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	保護者の話をよく聞き取り、支援に必要な情報が得られるよう標準化された内容以外も聞き取りできるようにしている。	アセスメントツールの項目を再確認し、必要な項目があれば今後付け足していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	チームで話し合いながら翌々月のプログラムを保護者に提示し、保護者は活動内容の確認や支援方法等共有する。がHUGシステム内で確認できる。	チーム内で立案後、事業所全体で活動の目を保護者に提示し、保護者は活動内容の確認や支援方法等共有する。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	利用日数、人数、小集団内のこどものタイプに合わせて、日々のプログラムを用意している。	子どもの成長集団や季節、学校行事を踏まえながら、見直しを持った活動プログラムを立案する。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	0	特に問題なし。	時間設定、プログラム内容等時間の提示をし、生活流れが分かる様設定している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	特に問題なし。	個別、小集団での支援内容を作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	朝のミーティングで必要に応じ、支援内容や役割分担の確認をしている。	送迎で添乗、運転業務があるため、朝のミーティング時間を簡潔にしたり、確認する内容を再検討する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	5	個々の記録は取り、職員間で支援内容やこどもの様子の把握はおこなっている。	システム上、連絡機能で支援内容の把握は出来るが、送迎業務等その日行われた支援の振り返る時間が持てない為、業務日誌に共有が必要な支援内容等を記載したり、翌朝振り返る時間が持てるよう時間を作る。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	2	記録はシステムに記している。	個別の課題は誰が、何の課題に取り組んでいるのか記載している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0	定期的なモニタリングは必ずおこない、半年に一度個別支援計画作成をおこなっている。	半年に一度ではなく、3か月に一度のモニタリングが必要な場合もある為、一層丁寧な中間評価をおこなう。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	6	0	特に問題なし。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	特に問題なし	児発管だけでなく、直接支援している職員も今後体制が整えば参画できるようにする。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	0	特に問題なし	学校、事業所間に保護者を介し、三者で情報共有、送迎の連絡をおこなえるよう、HUGの連絡機能や電話で今後も連携していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	6	現在該当者なし	今後必要なケースを受け入れる場合連携していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	3	必要に応じ連携を取る。	適宜情報共有を図る。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	5	現在該当者なし	現在該当者なし
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	5	サービス担当者会議内で他事業所の様子や助言を頂いている。	助言を頂く機会を設ける。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	6	公園内の運動遊具と一緒に使う中で、会話や遊具のやりとりが出来る場所を選ぶこともある。	個人情報に留意しながら、近隣に交流出来る所があれば参加していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	6	今年度は参加していない。	適宜、必要に応じ、協議会等への参加をずる。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	1	送迎時に様子を伝えることはあるが、共通理解が確認できるまでの把握をする時間がない。	必要に応じ、利用日以外でも保護者面談をおこなえる機会を設ける。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	6	初年度実施していない。	次年度保護者の交流の場を作るところから始める。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	特に問題なし	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1	特に問題なし	保護者の状況に合わせ、ご利用日に保護者に見学の提案や支援計画更新時に面談を行う等、話が出来る時間が作れるよう提案する。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	6	初年度実施していない。	保護者同士の連携支援は今後検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	速やかに職員間で共有し、対応できる部分は子どもや保護者から聞き取り、丁寧に対応する。	子どもや保護者からの申し出後、直ちに苦情解決責任者へ報告、職員間で苦情内容を共有し、対応策を計る。子どもや保護者には迅速に状況説明と対応策を合わせて報告する。
	34	定期的な会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	2	HUGシステムの連絡機能やイベントのお知らせを発信したり、ブログ、インスタを定期的に発信している。	今後も適切に発信する。
	35	個人情報に十分注意している	6	0	適切に対応している。	今後も適切に対応していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	1	視覚的な支援(子どもに応じ、提示の仕方を変えて対応している。)を取り入れている。	視覚的な支援だけでなく、意思疎通の出来る支援方法や技法の習得を職員間で共有し、子ども、保護者へ配慮できるようにする。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	5	今年度は実施していない。	防犯も踏まえ適宜検討していく。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	2	職員間でマニュアルの周知はおこなえている。	契約時に保護者へマニュアル提示をし、安心して過ごせる対応を伝える。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	年間スケジュールの中で訓練実施をしている。	訓練内容の見直しをし、現実的な避難訓練をおこなう。

非常時等の対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	3	ミーティング内で子どもへの関わり方、対応や子どもの様子の把握に努めた。	研修機会を増やす。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	1	周知はしている。	児発管がおこなっているが、全体で理解を深める機会を持つ。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	3	クッキングの活動や普段のおやつ提供時契約時に頂いている書面を確認しながら提供している。	今後もおやつ提供やクッキングの事前準備でアレルギーのある子どもへの配慮をおこなう。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	特に問題なし	会議で共有し、すぐに対策を講じている。適宜対応する。